

事務事業名	≪H24新規≫地域子育て支援拠点(ひろば型)事業 ☒ 実施計画事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	2012- 900030					
			所属課室	子育て支援課		課長名	藤巻喜代子					
			所属担当	児童担当		担当者名	野田 剛					
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政 策		17	社会福祉の充実		事業区分	01	一般	03	02	01	040	18
施策		28	児童福祉の充実									
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 24 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		法令根拠									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 核家族化や新住民が増加する中、孤立する子育て家族も多くなり、こうした母親の拠り所となる施設が必要な状況のため、あんふぁんねつが運営する子育て支援ひろばに対し支援を行う。					事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)						
						項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)			
						その他補助金(国・県に関するもの)	8,000					
										計	8,000	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	あんふぁんねつが行う子育て支援ひろばの運営を支援する。
25年度活動予定	
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
5歳未満の児童とその保護者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていくのか、どのように変えるのか)	
ひろばを訪れた親子のつながりが深まり、孤立する子育て家族が減少する。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
市の子育て支援に対する満足度が上昇する。	

⇒	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア 開所しているひろばの数	ヶ所
⇒	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア 5歳未満の児童数	人
⇒	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア ひろばの来場者数	人
⇒	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
	名称	単位
	ア 「安心して子育てができる環境がある」と回答した市民の割合	%

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 (トータルコスト・目標)	年度
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円		3,197	3,201					
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円		4,803	4,799					
	人件費	事業費計 (A)		千円	0	8,000	8,000	0	0	0	0	
		正規職員従事人数		人		1						
		延べ業務時間		時間		30						
		人件費計 (B)		千円	0	119	0	0	0	0	0	
		(A)+(B)		千円	0	8,119	8,000	0	0	0	0	
	活動指標		ヶ所			1.0						
	対象指標		人			3,201.0						
	成果指標		人			11,000.0						
	上位成果指標		%			42.6						

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	21年度から県の委託事業として、あんふぁんねつが楡形地区に子育て支援ひろばを開設した。23年度で委託期間が終了したが、ひろばの利用者から継続を望む声が多く、24年度から市が助成することとした。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	孤立化する子育て家族の増加に伴い、子育ての不安を解消できない(不安を抱え込んでしまう)母親が多くなっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	子育てで一番大変な時期である乳幼児を持つ子育て家族への支援が求められている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	24年度からの新規事業なので、今年度の実施状況により改革改善に取り組む。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	《H24新規》地域子育て支援拠点(ひろば型)事業	所属部	保健福祉部	所属課	子育て支援課
-------	--------------------------	-----	-------	-----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 少子化が問題となっている今日において、安心して子育てができる環境整備は、児童福祉の最大のテーマであるため、市の施策に結びついている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 営利を生み出す事業ではないが、安心して子育てを行える環境づくりとしては欠かせない事業のため、公共関与は妥当である。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☒ 民間・NPO ☐ 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 子育てに不安を抱いている母親は、年々増加する傾向にあるので、事業の維持・継続は必要である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 NPOのスタッフを増やすことができれば、出張サービスなどにも取り組むことができるため、成果を向上させることは可能である。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☒ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) 一部の保育所で実施している「地域子育て支援拠点(センター型)事業」 ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 利用者が多様化するため、統合はできない。 ☐ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☐ 休止・廃止ができる ☐ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 子育てに不安を抱いている母親の拠り所が無くなってしま 子育てに不安を抱いている母親の拠り所が無くなってしま
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ひろばの利用料金を徴収することができれば事業費の削減は可能である。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 一人の職員が担当しているため、これ以上の削減は見込めない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由↓】 利用料はNPOの収益で、市の収入ではないが、利用料の設定については多少の見直し余地がある。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	もともと県の委託事業として開始された事業で、利用者負担を格安に設定していたため、現時点での見直しは困難であるが、サービス内容の検討などと合わせて、利用者負担についても検討する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☒ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上(有効性④の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について 利用者の意向などを調査し、サービス内容・利用者負担などについて見直す。		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☒</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☐</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☒	☐	☐	維持	☐	☐		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☒	☐	☐																				
	維持	☐	☐																					
	低下	☐																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 利用者負担の増額に対する反発。		(5) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																						